

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 連結経営成績に関する定性的情報

【事業環境】

当第1四半期連結累計期間における世界経済は、欧州ではギリシャの政治的混乱やスペインの金融不安を受けた政府債務問題の再燃により、金融市場は不安定な状態が続いています。また、実体経済においても南欧を中心に、政府の緊縮財政や失業率の上昇により景気の悪化が続いています。米国は緩やかに回復しているものの、雇用者数の回復速度が緩やかになるなど景気の下振れが懸念されています。新興国は欧州の景気悪化に伴う輸出の減少などにより成長率が鈍化しております。

国内経済は、東日本大震災からの復興需要やエコカー補助金の効果により内需は堅調に推移しました。一方外需は一部に持ち直しの動きが見られるものの、為替が再び円高方向に転じたことや海外経済の下振れリスクなどにより先行きに対する不透明感が高まっています。

【第1四半期の決算概況】

(単位: 億円)

	2011年度 第1四半期 (2011年4月1日～ 2011年6月30日)	2012年度 第1四半期 (2012年4月1日～ 2012年6月30日)	前年同期比		為替影響を 除く 増減率(%)
				増減率(%)	
売上高	9,860	9,573	287	2.9	1
売上原価	7,215	7,067	147	2.0	
売上総利益 (売上総利益率)	2,645 (26.8%)	2,506 (26.2%)	139 (0.6%)	5.3	
販売費及び一般管理費	2,817	2,756	60	2.1	
営業利益 (営業利益率)	171 (1.7%)	250 (2.6%)	79 (0.9%)	-	
営業外損益	17	0	16	-	
経常利益	188	251	62	-	
特別損益	75	1	77	-	
税金等調整前四半期純利益	263	249	14	-	
法人税等	30	18	11	-	
少数株主利益	29	7	36	-	
四半期純利益	204	237	33	-	

< 2012年度の業績見通し[年初(4月)予想] >

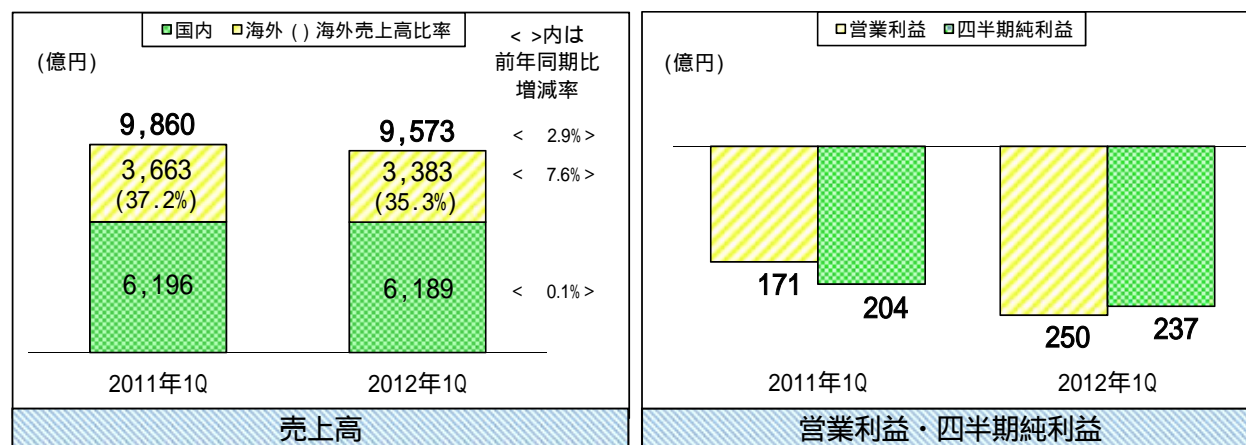
(単位: 億円)

	2011年度(実績)			2012年度(予想)*			前年比		
	上半期	下半期	通期	上半期	下半期	通期	上半期	下半期	通期
売上高	20,923	23,752	44,675	21,000	24,500	45,500	76	747	824
営業利益	70	982	1,053	50	1,300	1,350	20	317	296

*2012年度(予想)については、2012年4月27日に公表した数値を記載しています。7月27日現在の予想については14ページをご覧ください。

以下の文中において、当第1四半期連結累計期間を当第1四半期、前年同四半期連結累計期間を前年同期と記載しております。また、文中に記載しております為替影響は、米ドル、ユーロ、英ポンドを対象に前年同期の平均円レートを当第1四半期の外貨建取引高に適用して試算しております。

【損益の状況】



売上高は9,573億円と、前年同期比2.9%の減収になりましたが、為替影響を除くとほぼ前年同期並みです。国内は、ほぼ前年同期並みです。携帯電話、LSIが減収となったほか、前連結会計年度が納入のピークであった次世代スーパーコンピュータシステムが売上減となりましたが、前年同期に震災により需要の低迷していたオーディオ・ナビゲーション機器の売上が回復したほか、ネットワークプロダクトが伸長しました。海外は7.6%の減収になり、為替影響を除くと2%の減収です。オーディオ・ナビゲーション機器が増収となりましたが、北米向けの光伝送システムやUNIXサーバが減収となりました。

米ドルの平均レートは80円(前年同期比2円の円高)、ユーロは103円(同14円の円高)、英ポンドは127円(同6円の円高)となり、為替影響により売上高が前年同期比で約200億円減少し、海外売上高比率は35.3%と、前年同期比1.9ポイント低下しました。

売上総利益は、2,506億円と、前年同期比139億円の減益になりました。LSIや光伝送システムの減収影響のほか、米ドルに対してユーロ安が進んだことにより欧州でのドル建ての部材調達コストが上昇したことによりです。売上総利益率は26.2%と、前年同期比0.6ポイント低下しました。

販売費及び一般管理費は、2,756億円と、為替影響などにより前年同期比60億円減少しました。研究開発費も携帯電話を中心に減少しましたが、ネットワークなどの先行開発投資は継続して進めております。

この結果、営業利益は250億円の損失と、前年同期比79億円の悪化となりました。

経常利益は251億円の損失と、前年同期比62億円の悪化となりました。営業外損益はほぼブレイクイーブンと、為替差損益の好転などにより前年同期比16億円改善しました。

税金等調整前四半期純利益は249億円の損失と、前年同期比14億円の改善となりました。経常利益は悪化したものの、前年同期に震災関連の特別損失75億円を計上していたことなどによりです。少数株主利益は7億円と、オーディオ・ナビゲーション機器の合併会社の業績改善などにより益転しました。

四半期純利益は237億円の損失と、前年同期比33億円の悪化となりました。

セグメント情報

(単位：億円)

		2011年度 第1四半期 (2011年4月1日～ 2011年6月30日)	2012年度 第1四半期 (2012年4月1日～ 2012年6月30日)	前年同期比		
					増減率(%)	為替影響を 除く 増減率(%)
テクノロジー ソリューション	売上高	6,591	6,271	320	4.9	3
	国内	4,027	4,022	4	0.1	0
	海外	2,563	2,248	315	12.3	7
	営業利益 (営業利益率)	25 (0.4%)	8 (0.1%)	16 (0.3%)	65.4	
サービス	売上高	5,340	5,136	203	3.8	2
	営業利益 (営業利益率)	20 (0.4%)	49 (1.0%)	28 (0.6%)	138.7	
システム プラットフォーム	売上高	1,251	1,134	116	9.3	8
	営業利益 (営業利益率)	4 (0.4%)	40 (3.6%)	45 (4.0%)	-	
ユビキタス ソリューション	売上高	2,354	2,346	8	0.4	2
	国内	1,788	1,758	29	1.7	2
	海外	565	587	21	3.8	12
	営業利益 (営業利益率)	0 (0.0%)	20 (0.9%)	20 (0.9%)	-	
デバイス ソリューション	売上高	1,408	1,303	105	7.5	6
	国内	813	720	92	11.4	11
	海外	595	583	12	2.0	1
	営業利益 (営業利益率)	10 (0.7%)	36 (2.8%)	26 (2.1%)	-	
その他/ 消去又は全社	売上高	493	347	146	-	-
	営業利益	186	202	16	-	
連結	売上高	9,860	9,573	287	2.9	1
	国内	6,196	6,189	6	0.1	0
	海外	3,663	3,383	280	7.6	2
	営業利益 (営業利益率)	171 (1.7%)	250 (2.6%)	79 (0.9%)	-	

売上高の主要製品別内訳

(単位:億円)

	2011年度 第1四半期 (2011年4月1日～ 2011年6月30日)	2012年度 第1四半期 (2012年4月1日～ 2012年6月30日)	前年同期比		
			増減率(%)	為替影響を 除く 増減率(%)	
テクノロジーソリューション	6,591	6,271	320	4.9	3
サービス	5,340	5,136	203	3.8	2
ソリューション/SI	1,685	1,705	20	1.2	1
インフラサービス	3,655	3,431	224	6.1	3
システムプラットフォーム	1,251	1,134	116	9.3	8
システムプロダクト	628	491	137	21.9	19
ネットワークプロダクト	622	643	21	3.4	4
結 ユビキタスソリューション	2,354	2,346	8	0.4	2
パソコン/携帯電話	1,908	1,706	202	10.6	8
モバイルウェア	445	639	193	43.5	45
デバイスソリューション	1,408	1,303	105	7.5	6
LSI	770	678	92	12.0	11
電子部品	640	627	12	2.0	1

[売上高の四半期別推移(2011年度第1四半期～2012年度第1四半期)]

(単位:億円)

	2011年度				2012年度
	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	第1四半期
ソリューション/SI	1,685	2,077	1,915	2,571	1,705
インフラサービス	3,655	3,769	3,676	4,363	3,431
システムプロダクト	628	687	578	932	491
ネットワークプロダクト	622	729	691	765	643
パソコン/携帯電話	1,908	2,074	2,324	2,587	1,706
モバイルウェア	445	728	687	785	639
LSI	770	857	756	887	678
電子部品	640	621	628	695	627

(注)1.売上高にはセグメント間の内部売上高を含みます。

2.為替影響は、米ドル、ユーロ、英ポンドを対象に前年同期の平均円レートを当第1四半期の外貨建取引高に適用して試算しております。

3.「LSI」の売上高には、「電子部品」への内部売上高を含めて表示しております。

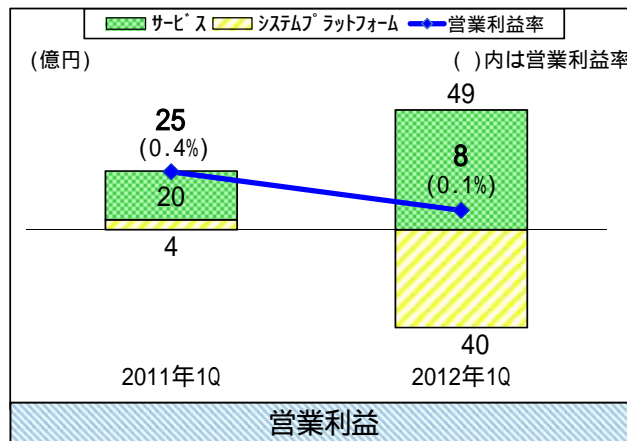
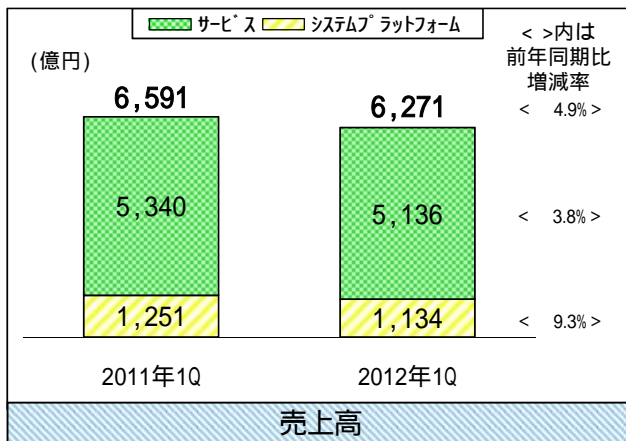
4.「その他/消去又は全社」には、次世代スーパーコンピュータ事業、当社グループ会社向け情報システム開発・ファシリティーサービス事業及び当社グループ従業員向け福利厚生事業等のほか、基礎的試験研究等の戦略費用及び親会社におけるグループ経営に係る共通費用が含まれております。

【セグメント別の状況】

当第1四半期のセグメント別の売上高(セグメント間の内部売上高を含む)及び営業利益は以下のとおりです。

<事業別>

テクノロジーソリューション



(単位: 億円)

売上高は6,271億円と、前年同期比4.9%の減収になりました。国内はほぼ前年同期並みです。サーバ関連は、大型システム商談の減少や、前年同期に次世代スーパーコンピュータシステムを構成する専用サーバを量産した影響があり、減収になりました。携帯電話基地局などのネットワークプロダクトは、通信キャリアの投資が通信トラフィック対策やLTEサービスエリアの拡大により増加したため、増収になりました。またシステムインテグレーションは、金融分野の大型システム商談が減少しているほか、通信キャリアの投資がハードウェアにシフトしている影響があったものの、製造、流通、公共を中心に投資が回復しており、ほぼ前年同期並みになりました。インフラサービスは伸び悩みました。海外は12.3%の減収になり、為替影響を除いても7%の減収です。光伝送システムが北米通信キャリアの投資低迷により減収となったほか、UNIXサーバも減収になりました。また欧州の景気悪化や米国の景気回復鈍化により、その他サーバ関連も減収になりました。

	2012年度 第1四半期	前年同期比
売上高	6,271	4.9%
国内	4,022	0.1%
海外	2,248	12.3%
営業利益	8	16

営業利益は8億円と、前年同期比16億円の減益になりました。国内では、システムインテグレーションやサーバ関連で大型システム商談の減収影響があったほか、ネットワークプロダクトを中心に先行開発投資が増加しましたが、ネットワーク関連の増収効果により、全体としては増益となりました。海外では、インフラサービスの採算性改善が進みましたが、光伝送システムやサーバ関連の減収影響があり、悪化しました。

サービス

(単位:億円)

売上高は5,136億円と、前年同期比3.8%の減収になりました。国内はほぼ前年同期並みです。システムインテグレーションは、金融分野の大型システム商談が減少しているほか、通信キャリアの投資が通信トラフィック対策のためにハードウェアへシフトしている影響があったものの、製造、流通、公共を中心に投資が回復しており、ほぼ前年同期並みになりました。インフラサービスは、通信トラフィック対策を背景としてネットワークサービスの無線LANなどが増収になりましたが、ISP事業で回線料金込みのパック商品から単体商品へシフトしている影響があり、伸び悩みました。海外は8.4%の減収になり、為替影響を除いても3%の減収です。欧州の景気悪化や、米国の景気回復鈍化により、ICT投資に対する慎重さが増しており、減収になりました。

	2012年度 第1四半期	前年同期比
売上高	5,136	3.8%
国内	3,157	0.7%
海外	1,978	8.4%
営業利益	49	28

営業利益は49億円と、前年同期比28億円の増益になりました。国内では、大型システム商談の減少影響があったものの、ネットワークサービスの増収効果などにより、増益になりました。海外では、減収影響に加え、英国の退職給付費用の負担増はありましたが、欧州サービス事業の採算性が好転しつつあり、改善しました。

システムプラットフォーム

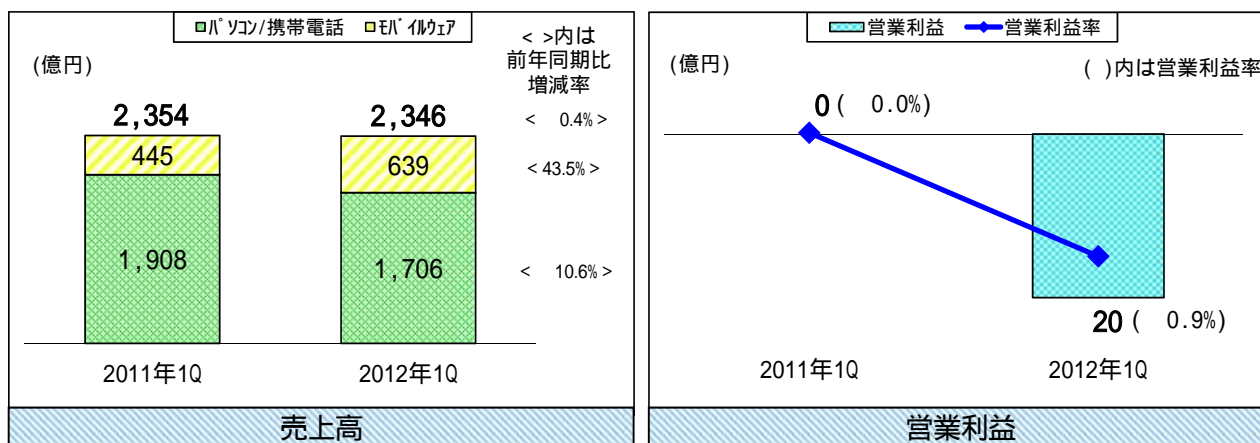
(単位:億円)

売上高は1,134億円と、前年同期比9.3%の減収になりました。国内は2%の増収です。サーバ関連は、大型システム商談の減少や、前年同期に次世代サーバーコンピュータシステムを構成する専用サーバを量産した影響があり、減収になりました。携帯電話基地局などのネットワークプロダクトは、通信トラフィック対策やLTEサービスエリアの拡大に伴う投資が増加し、増収になりました。海外は33.1%の減収になり、為替影響を除いても29%の減収です。光伝送システムが北米通信キャリアの投資低迷により減収となり、UNIXサーバも減収になりました。IAサーバも欧州の景気悪化により伸び悩みました。

	2012年度 第1四半期	前年同期比
売上高	1,134	9.3%
国内	864	2.0%
海外	269	33.1%
営業利益	40	45

営業利益は40億円の損失と、前年同期比45億円の悪化になりました。国内では、サーバ関連の減収影響があったほか、ネットワークプロダクトを中心に先行開発投資が増加しましたが、ネットワークプロダクトの増収効果により、全体としては増益となりました。海外では、北米向け光伝送システムやUNIXサーバ、IAサーバの減収影響により、悪化しました。

ユビキタスソリューション



(単位：億円)

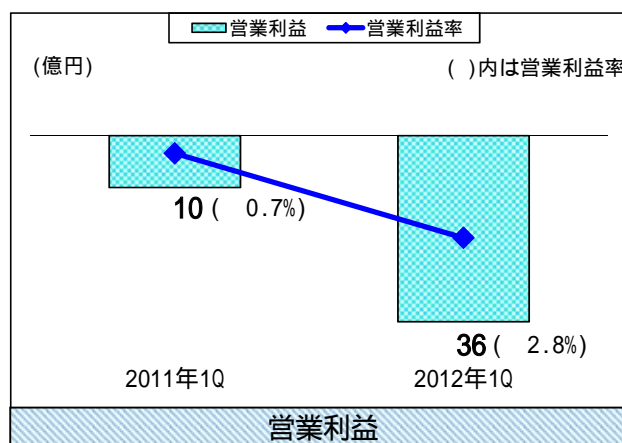
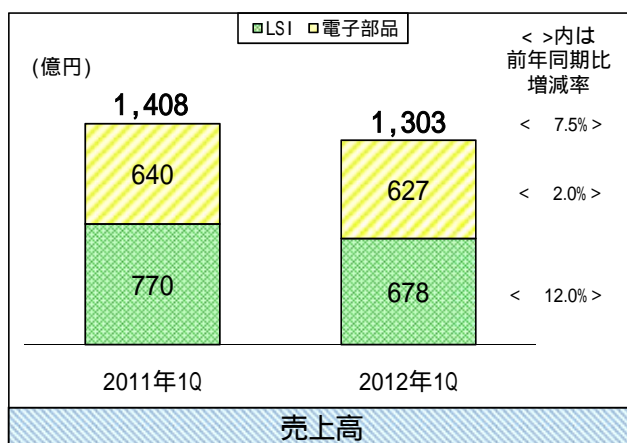
売上高は2,346億円と、ほぼ前年同期並みになりました。国内は1.7%の減収です。パソコンは、金融分野で大型ロット商談があったものの、個人向け市場において各社が在庫圧縮を進めたことにより価格競争が激化し、伸び悩みました。携帯電話は第2四半期に多くの新機種発売を控え、当第1四半期においては新機種発売が少なかったため、減収になりました。モバイルウェアのオーディオ・ナビゲーション機器は、前年同期に震災により車両生産が停滞していた影響により、増収となりました。海外は3.8%の増収になり、為替影響を除くと12%の増収です。モバイルウェアは前年同期に海外の車両生産が停滞していた影響により、増収となりました。パソコンは欧州拠点を中心に販売台数が増加しましたが、価格競争が激化しており、ほぼ前年同期並みになりました。

	2012年度 第1四半期	前年同期比
売上高	2,346	0.4%
国内	1,758	1.7%
海外	587	3.8%
営業利益	20	20

営業利益は20億円の損失と、前年同期比20億円の悪化になりました。国内では、パソコンが販売価格低下の影響を受けましたが、携帯電話の開発費が減少したほか、モバイルウェアの増収効果があり、ほぼ前年同期並みになりました。海外では、モバイルウェアの増収効果があったものの、パソコンが販売価格低下の影響や、米ドルに対してユーロ安が進んだことによる欧州でのドル建ての部材調達コスト増加の影響を受けました。

営業利益は20億円の損失と、前年同期比20億円の悪化になりました。国内では、パソコンが販売価格低下の影響を受けましたが、携帯電話の開発費が減少したほか、モバイルウェアの増収効果があり、ほぼ前年同期並みになりました。海外では、モバイルウェアの増収効果があったものの、パソコンが販売価格低下の影響や、米ドルに対してユーロ安が進んだことによる欧州でのドル建ての部材調達コスト増加の影響を受けました。

デバイスソリューション



(注)「LSI」の売上高には「電子部品」への内部売上高を含めて表示しております。

(単位：億円)

売上高は1,303億円と、前年同期比7.5%の減収になりました。国内は11.4%の減収です。LSIは、前年同期に次世代スーパーコンピュータシステム用CPUの最終納品用の売上があった反動に加え、自社サーバ向けが低迷しました。またデジタルAV向けを中心に市況回復遅れの影響がありました。電子部品も電池を中心に減収になりました。海外は2%の減収になりましたが、為替影響を除くと1%の増収です。電子部品は、市況回復に伴いアジア向けを中心に半導体パッケージが増収になりました。

	2012年度 第1四半期	前年同期比
売上高	1,303	7.5%
国内	720	11.4%
海外	583	2.0%
営業利益	36	26

営業利益は36億円の損失と、前年同期比26億円の悪化になりました。国内では、LSIが減収影響に加えて、所要減に伴う稼働率低下の影響を受けました。300mmラインは高水準を維持していますが、基盤ラインが引き続き低下しています。海外では、電子部品が円高による悪化影響はあったものの、半導体パッケージの増収効果がありました。

その他 / 消去又は全社

営業利益は202億円の損失と、前年同期比16億円の悪化になりました。新規ビジネス開発など先行投資を進めました。

独立行政法人理化学研究所様と共同開発を進めてきた次世代スーパーコンピュータ「京」は、2012年6月に最終的な動作確認試験を終えて完成しました。今後、運用環境設定や、調整運転、利用者登録などの環境整備を経て、9月末から共同利用が開始される予定です。

<所在地別>

当社グループが所在する国又は地域ごとの売上高及び営業利益は以下のとおりです。

